

国語科学習指導案

日 時 平成24年11月21日(水) 5校時
場 所 3年B組教室
学 級 3年B組
男子 9名 女子12名 計21名
授業者 高橋 真樹

1 単元名・教材名 「5 いにしえの心と語らう」 『夏草―「おくのほそ道」から』(光村図書)

2 単元について

(1) 教材について

『夏草―「おくのほそ道」から』は、第5単元「いにしえの心と語らう」に、『音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序』、『君待つと一万葉・古今・新古今』、『関連教材 古典の伝統』とともに取り上げられている。

出典である「おくのほそ道」は、松尾芭蕉によって書かれた紀行文であり、奥州・北陸の旅を通しての体験や見聞が、俳句を交えた文体で著されている。漢文調の簡潔で独特の音律をもった格調高い文章は、江戸時代の代表的な紀行文として今に伝わっている。

冒頭の文章である「1」は、旅立ちに当たっての芭蕉の思いがつつられている。そこには、芭蕉の旅への強いあこがれが示されているとともに、考え方の根底にある人生観や芸術観についても述べられている。文章が難解であることから、口語訳が付設されている。

「2」の平泉の部分は、高館と光堂の二場面からなっている。高館の場面では、昔の名残をとどめることのない変化を描き、光堂の場面では、変わらずに残っているものが描かれている。この二つのコントラストを描くことによって、人間のはかなさへの感慨が記されている。

(2) 生徒について

授業での活動は、教師の発問に対して、多くの生徒が進んで挙手し、発言をするなど活発である。ただし、発表の際の声が小さい生徒が多いので、はっきり聞き取れるような発表ができるように指導している。全体的に、本文から解答を抜き出すような発問に対しての反応はよいが、文面に直接記述されていない登場人物の考えや作者の思いを考えるとといった発問は苦手としている。自分と異なる考えに対して自分の意見を述べるができる生徒もいるが、そこから活発な意見交換へと進むまでには至っていない。指示を十分に理解しないまま、間違った作業をする生徒が何人か見受けられるので、机間指導の際に注意が必要である。

古典の学習に対しては、2年時の学習を振り返ると、『枕草子』の音読や暗誦に意欲的に取り組んでおり、興味・関心をもっていることが伺えた。しかし、歴史的仮名遣いや漢文の返り点といった古文の基本的な事項が十分には定着していない生徒も見受けられ、本単元の導入時に、再度確認する必要があると考えている。

家庭学習では、毎時間実施している漢字テストの予習については、ほとんどの生徒に取り組みが習慣として定着している。また、授業の予習・復習として提示される、ワークや学習シートを使った宿題にも、ほぼ全員が取り組んでくる。ただし、調べ学習の内容には個人差が見られる。また、次時の学習内容の提示を受けて、既習事項に照らし合わせて自ら課題を考えて家庭学習に取り組むといった段階には、まだ達していない。

(3) 指導について

学習指導要領に、第3学年「C 読むこと」の目標として、「目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。」とあることを踏まえて、本教材においては、指導事項の中から、「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。」に重点を置いて、松尾芭蕉のもの見方や考え方に対する自分の考えをまとめさせることを言語活動として取り組ませたい。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア) 歴史的な背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。」を踏まえて、我が国の伝統的な言語文化に親しむ態度を育てていきたい。

具体的な指導に当たっては、単元全体を通して、音読を多く取り入れることで、古典に親しむ気持ちをもちたい。また、その過程で、基礎的な知識のひとつである歴史的仮名遣いを現代仮名遣いへ読みかえる力の定着を図りたい。

「1」においては、付設されている口語訳を活用して、作品全体を貫く芭蕉の人生観や芸術観、さらには旅への強いあこがれなどといったことを読み取らせたい。そのうえで、この場面にあった朗読のしかたを工夫させたい。

「2」では、昔の名残をとどめていないものを描いた高館の場面と、往時をしのばせる光堂の場面と対比をとらえさせながら、人間の営みのはかなさといった、芭蕉のもの見方や考え方の根底にある無常観にもふれさせたい。また、芭蕉の考え方に対する自分の意見をまとめさせたい。また、部分的に脚注を参考にした口語訳に取り組ませ、助詞や主語を補う力を高めたい。

文章中の俳句に関わっては、『俳句の可能性』で学習した、季語、定型(五・七・五の音律)、切れ字などといった、俳句表現の形式や基本的な約束事の確認としても活用したい。

3 単元の見目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・和歌や紀行文を歴史的仮名遣い、言葉の響きやリズムに注意しながら繰り返し音読し、古典に親しもうとしている。

(2) 読む能力

- ・和歌に詠まれた情景や心情を想像したり、紀行文に表れた作者の思いを読み取ったりしながら、作者のものの見方や考え方をとらえるとともに、現代との共通点や相違点をとらえ、自分の考えを深めることができる。

(3) 言語についての知識・理解・技能

- ・歴史的な背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。

4 単元の学習（評価規準）と家庭学習の内容（全8時間）

時	主な学習内容			評価規準		
		国語への 関心・意欲・態度	C 読む能力	言語についての 知識・理解・技能		
家	・歴史的仮名遣いを確認する。(資料集)			【復習】【知識・技能】		
1	繰り返し音読し、古文の文章のリズムに親しむ。 【ア→I→④→C】	・繰り返し音読し、古文に親しもうとしている。	・和歌をどのようなものと考えていたかをとらえることができる。	・仮名遣いや言葉遣いに注意しながら音読できる。		
家	・それぞれの和歌集の基礎事項をまとめる。(教科書「出典」・資料集)			【復習】【知識・技能】		
2	三つの和歌集の特徴を知り、全十五首を音読して、好きな和歌を選ぶ。 【ア→I→④→C】	・和歌のリズムを意識して音読している。	・それぞれの和歌集の特徴をつかむことができる。	・言葉の響きやリズムに注意しながら音読できる。		
家	・選んだ和歌がどんな感覚(五感)から詠まれたのか想像する。(学習シート)			【予習】【思考力・判断力・表現力】		
3	和歌に描かれた心情や情景をグループで話し合う。 【ア→I→④→C】	・話し合いに進んで参加している。	・和歌に詠まれた心情や情景を読みとることができる。			
家	・選んだ和歌の情景や心情を想像する。(学習シート)			【予習】【思考力・判断力・表現力】		
4	鑑賞文を300字程度にまとめる。 【ア→I→④→C】		・脚注を参考にして解釈を補いながら、まとめることができる。			
家	・既習事項をもとに、ワークの問題を解く。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。(学習シート)			【復習】【知識・技能】 【予習】【知識・技能】		
5	繰り返し音読し、漢文調の文体を読み味わう。 【ア→I→④→C】	・繰り返し音読し、古文に親しもうとしている。	・口語訳や脚注を参考に大意をとらえることができる。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。		
家	・芭蕉の旅に対する思いが表現されている部分を見つけ、その理由を考える。(学習シート)			【予習】【思考力・判断力・表現力】		
6	「1」を読み、芭蕉の人生観や旅への思いをとらえ、それに対する自分の考えをもつ。 【イ→I→③→B】	・自分の考えを進んで発表しようとしている。	・芭蕉の旅立ちにあたっての思いをとらえることができる。	・古文と口語訳を対比して読むことができる。		
家	・「涙を落としはべりぬ」の理由を推測できる部分を見つける。(学習シート)			【予習】【思考力・判断力・表現力】		
7	「2」を読み、芭蕉のものの見方や考え方をとらえ、それに対する自分の考えをもつ。 【イ→I→③→B】	・自分の考えを進んで発表しようとしている。	・芭蕉のものの見方や考え方をとらえることができる。	・脚注を参考に、助詞を補いながら口語訳することができる。		
家	・芭蕉のものの見方や考え方に、共感できることやできないことを考える。(学習シート)			【予習】【思考力・判断力・表現力】		
8	心に響いた俳句を選び、その理由をまとめる。 【イ→I→①→C】	・自分の考えをまとめて発表しようとしている。	・自分の思いや体験と重ね合わせてまとめることができる。			
家	・既習事項をもとに、ワークの問題を解く。			【復習】【知識・技能】		

5 研究主題と本時の授業とのかかわり

研究主題 「確かな学力の育成 ～授業と家庭学習のサイクル化を通して～」

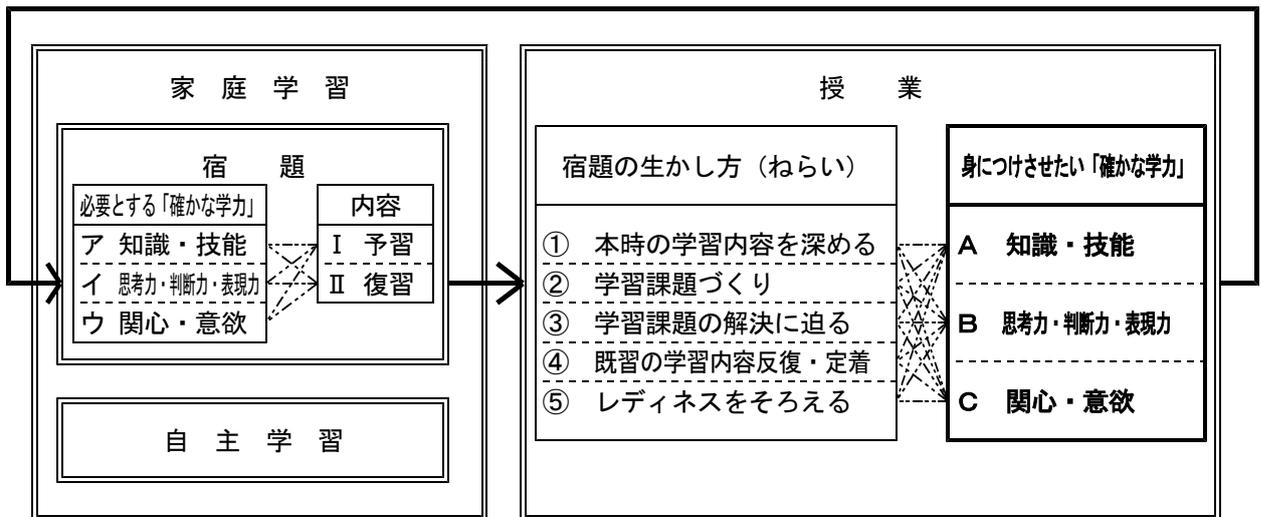


図 岩泉中における授業と家庭学習の具体的なサイクル

(1) 本時で身につけさせたい確かな学力

B 思考力・判断力・表現力

(2) 本時の授業と家庭学習のサイクルパターン

イ→I→③→B

(3) 授業構想

本教材では、「B 思考力・判断力・表現力」を身に付けさせるために、作者の思いをとらえることを課題の中心に据えて授業を進めていくこととする。本時では、『おくのほそ道』の冒頭部分（「1」）から、芭蕉がどのような思いをもって旅立とうとしているかをとらえることを学習課題とする。前時は、「芭蕉の旅に対する思いが表現されていると思われる部分を見つける。」という、「B 思考力・判断力・表現力」を必要とする「I 予習」を宿題として提示した。宿題の内容が、「芭蕉の思い」をとらえるための思考の根拠となることから、「③ 学習課題の解決に迫る」ねらいをもつこととなる。従って、上記の「岩泉中学校における授業と家庭学習の具体的なサイクル」にあてはめると、左から「イ→I→③→B」となる。

また、展開の最初に、宿題を発表させることで、学習課題の解決のよりどころとなることを確認させて、学習課題の解決へとつなげていきたい。宿題の解答としては、現代語訳の「旅に出たい気持ちが動いてやまず」「ただもうそわそわさせられ」「何も手につかないほどに落ち着かず」「もう、松島の月がまず気になって」という部分から、古文の「漂泊の思ひやまず」「春立てる～、そぞろ神の～道祖神の～」「松島の月～、住めるかたは～」が取り上げられることが予想される。これらをよりどころとして、芭蕉が旅に対して強いあこがれをもっていったことに気付かせたい。さらには、修学旅行に出かけるときに感じたであろう高揚感を思い出させることによって、自分たちもまた芭蕉と同じような感覚をもっていることに気付かせ、古典への親しみをもたせたい。また、当時と現代との旅行形態の違いを考えることから、旅に臨む芭蕉の強い決意が生まれていることにも気付かせたい。

また、授業での発表が明瞭なものとなるための意識付けとして、導入部で音読を取り組むこととする。

6 本時について

(1) 目標

- ① 自分の考えを進んで発表しようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
- ② 芭蕉の旅立ちにあたっての思いをとらえることができる。 (C 読む能力)
- ③ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して音読できる。 (言語についての知識・理解・技能)

(2) 評価規準

観 点	評 価 規 準	努力を要する生徒への手立て
国語への関心・意欲・態度	自分の考えを進んで発表しようとしている。	他の発表者の考えに対して、その考えをどう思うか発表させる場面を設ける。
読む能力	芭蕉の旅への思いをとらえている。	「さそはれ」「思ひやまず」など、心情を表す言葉に注目させて考えさせる。
言語についての知識・理解・技能	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して音読している。	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに書き直した学習シートを見ながら音読させる。

(3) 展開

	学習活動 (宿題関連は <input type="checkbox"/>)	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 10	1 「1」を音読する。 2 学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いやリズムに注意しながら読ませる。 ・学習シートに記入させ、全員に読ませって確認させる。 	【言語についての知識・理解・技能】 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して音読できる。
展開 32	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">芭蕉の旅への思いをとらえる。</div> 3 全体の解釈を確認する。 ○芭蕉の旅への思いが表現されている部分を確認する。 ・「旅をすみかとする」 ・「漂泊の思ひやまず」 ・「そぞろ神の～道祖神の～」 ・「松島の月～」 ・「住めるかたは～」 4 芭蕉の思いを読み取る。 ○芭蕉の人生観・芸術観をとらえる。 ・人生は旅である。 ・「古人」の生き方に近づきたい。 5 芭蕉の思いをまとめる。 ・旅とは人生のようなものであり、古人のように自分もまた一生を旅に捧げたいとの考えから、旅に強いあこがれを抱いている。 6 芭蕉の人生観に対する自分の考えをまとめる。 ・旅行前には期待と興奮を感じる。 ・現代の旅行では、帰ってこられないという覚悟まではしないと思う。 など	<ul style="list-style-type: none"> ・複数名に指名し、発表させる。 ・学習シートを準備させ、記述してあることを発表させる。 ・挙手による積極的な発言をうながす。 ・他者の発表を聞いて、気付いたところに線を引かせる。 ・他者の考えに対する意見も発表させる。 ・学習した内容をふまえて、自分の言葉でまとめさせる。 ・努力を要する生徒への指導を行う。 ・「あこがれ」や「決意」に対する意見を書かせる。 	【関心・意欲・態度】 ・自分の考えを進んで発表しようとしている。 【読む能力】 ・芭蕉の旅立ちにあたっての思いをとらえることができる。
まとめ 8	7 音読をする。 8 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">宿題と次時の学習内容を確認する。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉の思いをイメージして、音読させる。 ・学習シートを配布する。 ・「涙を落としはべりぬ」の理由を推測できる部分を見つけることを宿題とし、芭蕉のものの方や考え方をとらえる学習をすることを告げる。 	

学習課題

芭蕉の旅への思いをとらえる。

「漂泊の思ひやまず」

「そぞろ神の物につきて心をくるはせ」

「道祖神の招きにあひて、取るもの手につかず」

「松島の月まづ心にかかりて」

→
旅へのあこがれ（期待）

「古人も多く旅に死せるあり」

「住めるかたは人に譲り、杉風が別荘に移る」

→
旅に生きる決意（覚悟）
（二度と戻って来ることはないかもしれない）

人生観

=
時間は旅人であり、人間も旅人である
人の一生は旅のようなものである。

←
「旅をすみかとする」